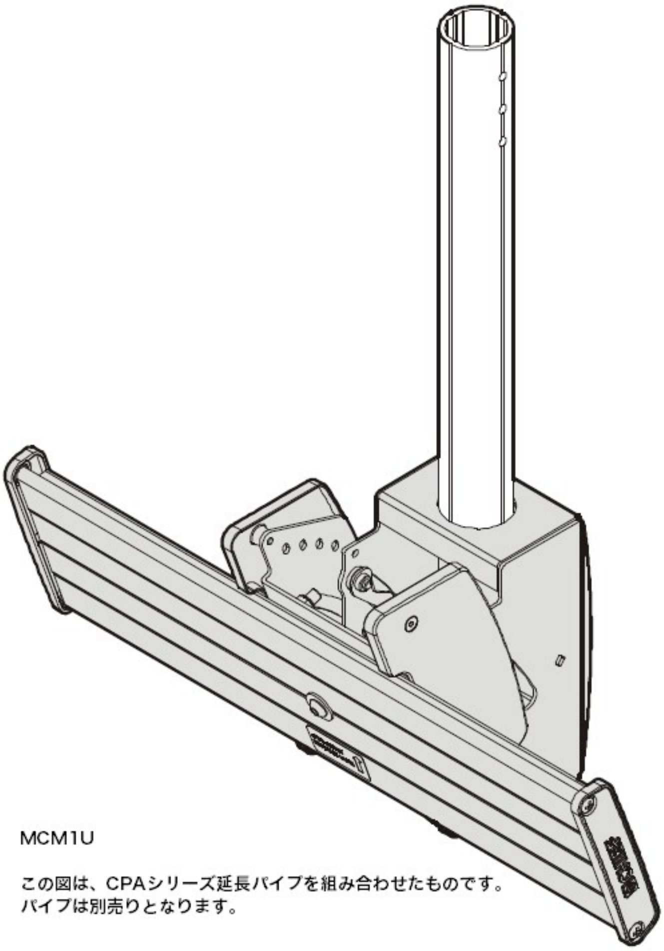
取扱説明書

大型FPD用天吊マウント

型番　MCM1U



MCM1U

この図は、CPAシリーズ延長パイプを組み合わせたものです。
パイプは別売りとなります。

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ正しくお使いください。とくに「安全上のご注意」は必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも取り出せるところに必ず保管してください。

設置には特別な技術が必要ですので、必ず専門の取付工事業者へご依頼ください。お客様による工事は一切行わないでください。

販売店様、工事店様へ

●お客様の安全のため、取り付け場所の強度には、少なくともディスプレイおよび金具の合計重量の5倍に耐えるよう十分注意の上、設計施工を行ってください。
●作業は必ず2名以上で行ってください。
●取扱説明書で指定しているネジや固定具は全数を確実に取り付けてください。

第002版　2014年 12月16日発行

安全上のご注意	ご使用の前に必ずお読みください

⚠ 警告と注意！

警告：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告
作業は必ず2名以上で行ってください。不十分な人員での作業はけがや破損の原因となります。

⚠ 警告
部品を改造しないでください。また破損した部品は使用しないでください。落下などの事故やけがの原因となります。

⚠ 警告
取り付けているネジがゆるんでいたり、抜けていたりすると、金具やディスプレイの落下につながり、非常に危険です。

⚠ 警告
ボルトやネジ類は指定の位置に指定の本数を確実に取り付けてください。また構造物に取り付ける固定金具類は、原則として付属しておりません。壁の材質や構造に合致した適切な固定金具を別途お求めの上、施工してください。

⚠ 警告
開閉するドアや家具の扉がぶつかる場所には設置しないようにしてください。また振動の多い場所や大きな力が加わる場所には設置しないでください。落下や破損、けがの原因となります。

⚠ 警告
作業中金具の突起部分（ピンチポイント）に注意し、指をはさまないようにご注意ください。

⚠ 警告
ディスプレイの取付作業を行うとき以外、ロック機構で確実にディスプレイを固定しているようにご確認ください。また、ケーブルの取り付け作業を行うときは、じゅうぶんにご注意ください。

⚠ 注意
運送による破損の可能性があるため、取付作業を行う前に、確実に商品の内容を点検してください。

設　置　の　前　に

■設置場所について

- 本製品とディスプレイを設置する構造物は総合荷重に長期間じゅうぶんに耐え、地震や予想される振動、外力にも耐え得る施工を行ってください。
- 設置の前に、本製品とディスプレイの重量を確認の上、構造物の強度を確認してください。強度不足の場合は十分な補強を行ってください。
- 荷重は必ず柱や梁などの堅牢な構造材で受けるように取り付けてください。
- 強度が不十分な構造物への直接取り付けは行わないでください。
  幅木や受け木には固定しないでください。
- コンクリートの構造物に取り付ける場合は総合、重量にじゅうぶん耐えるアンカー類を使用してください。

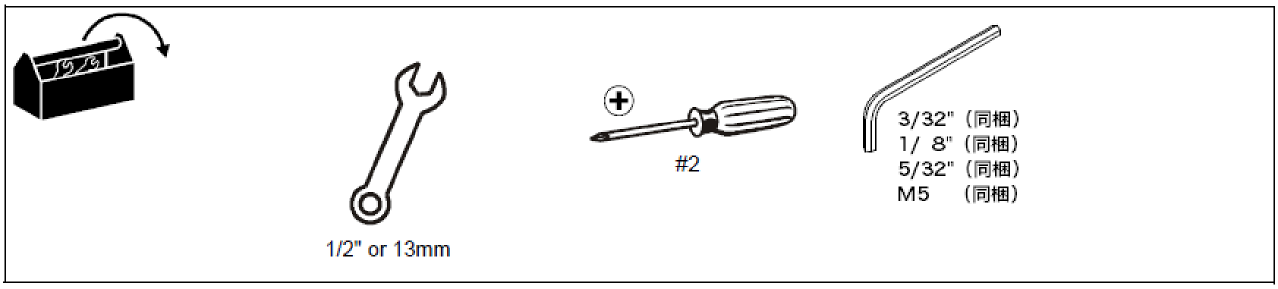
誤った取り付けや強度が不十分な取り付けを行った場合、ディスプレイが落下して重大な事故やけがの原因となりますので、十分ご注意ください。

■設置方法

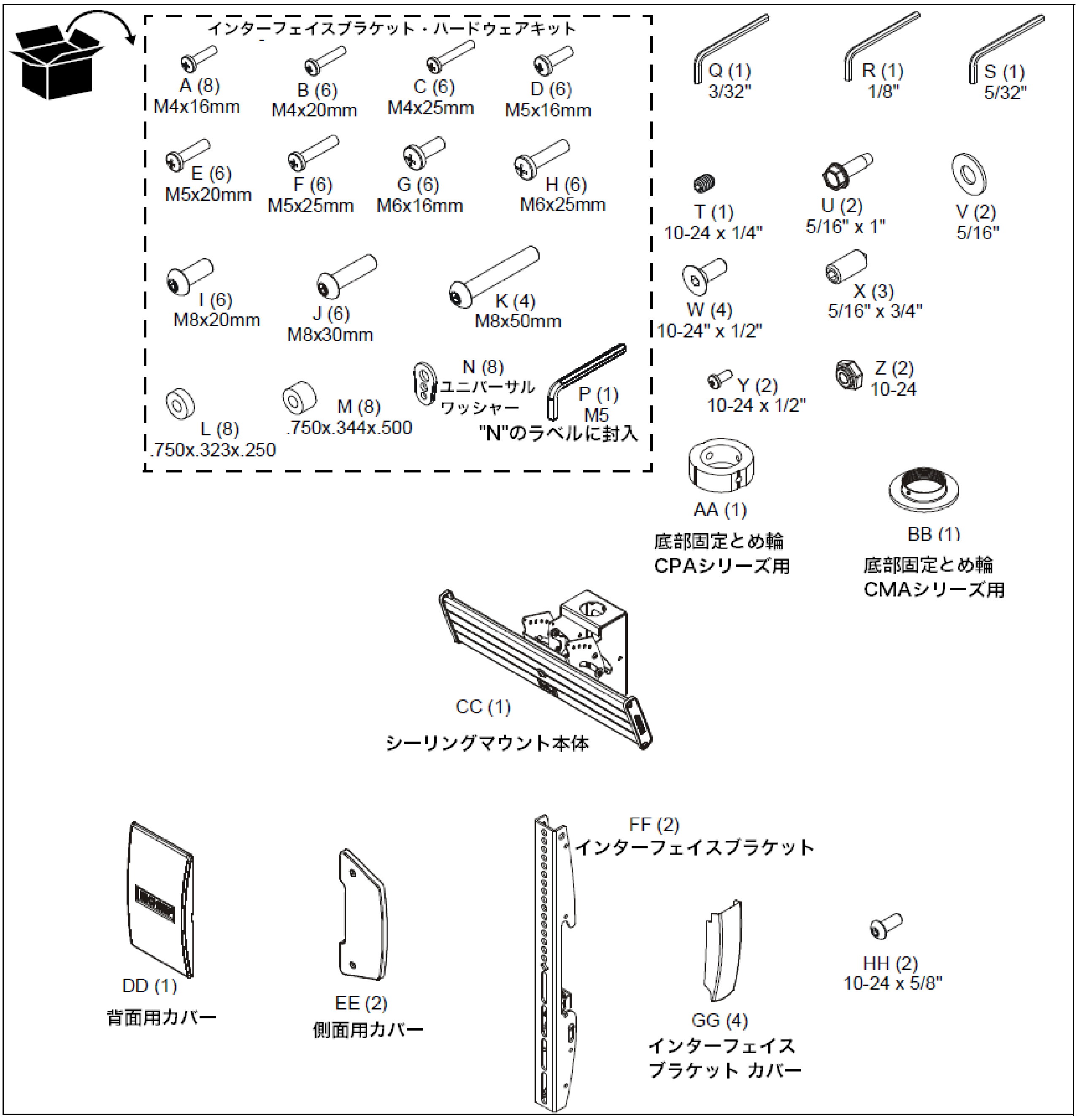
1. 各種の構造物に対応したアンカー類やネジ類は、じゅうぶんな強度を持ったものをご用意ください。
2. 本取扱説明書の安全上のご注意と設置場所についてよくお読みのうえ、ディスプレイの取り付け場所への適切な設置場所を決めてください。
3. 図にしたがって構造物にアンカー処理、した穴処理等を必要に応じて行ってください。
4. 構造物の強度やネジの保持強度が十分確保できるか確認してください。
5. 本製品を構造物にしっかりと取り付けてください。
   壁面もしくは天井面の取り付け部分のボルト穴各4点以上にバランスよく施工してください。

組 立 手 順

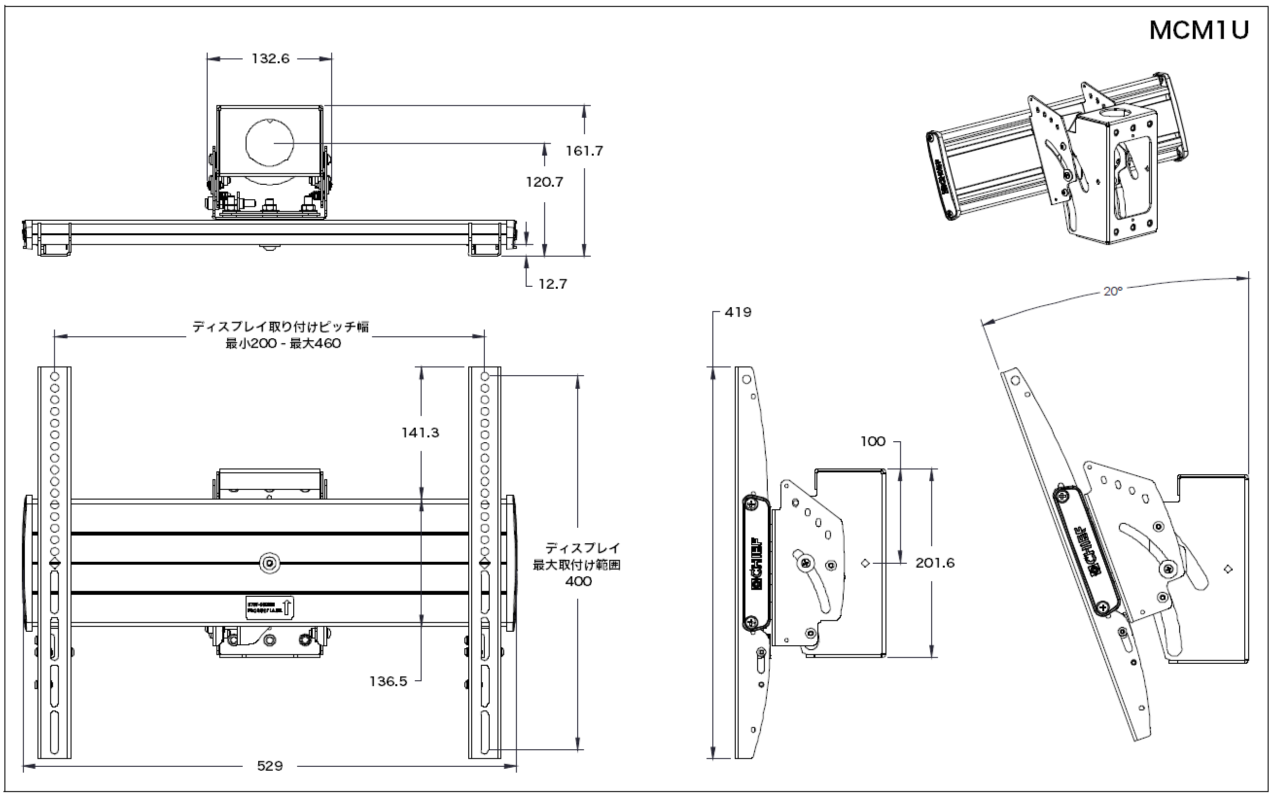
■本体の組立に最低限準備いただく工具



■天井側 マウントベースの部品と封入物



■MCM1Uの寸法図



単位: [mm]

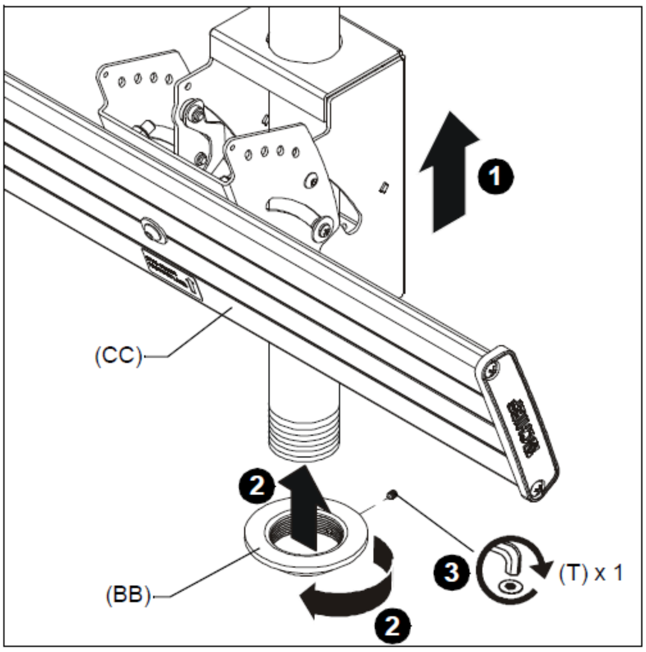
◆組立説明

⚠ 施工業者の責任において、本製品と取り付ける全ての製品の重量の5倍の荷重に耐えられるように構造物の補強をしてください。

本製品とパイプあるいは天井プレートの取り付けには、チーフ純正のCMS/CMAシリーズアクセサリーあるいはCPAシリーズアクセサリーを組み合わせてください。

次に、CMS/CMAシリーズおよび、CPAシリーズの取り付け方法を個別に説明します。

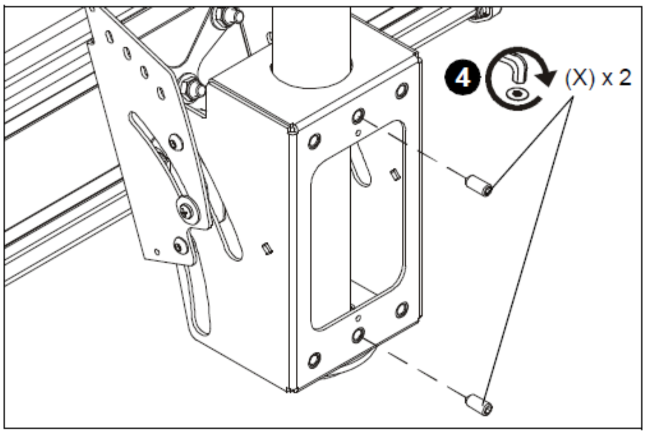
■CMS/CMAシリーズアクセサリー使用時の施工方法



【図−1】

【図-1】CMS/CMAシリーズアクセサリーのパイプを用いる場合、あらかじめ天井に固定したパイプに本製品を貫通させ、パイプの下に(BB)底部固定止め輪をねじ込んで取り付けてください。
底部固定止め輪は、少なくとも4山以上はねじ込んでください。
その後、(3)の(T)イモネジで固定します。

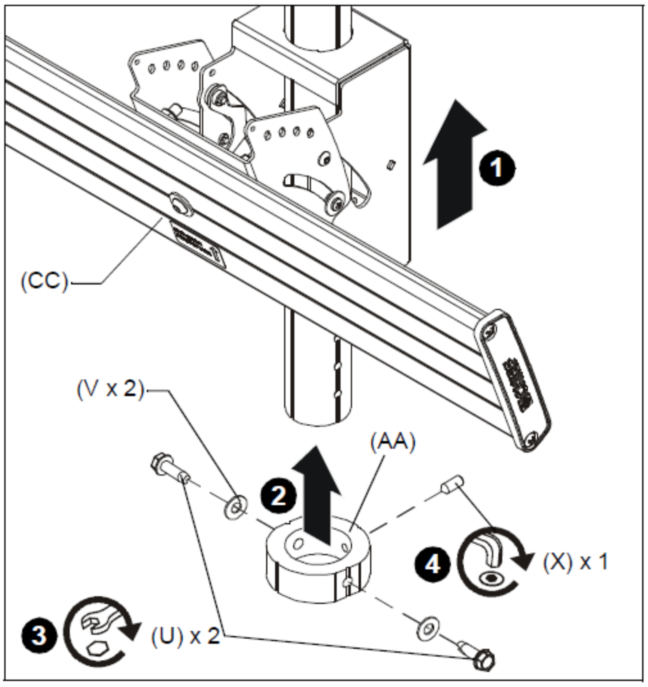
CMS/CMAシリーズバイプのネジはNPT規格によるテーパータイプですので、ねじ込むほど固くなってきますが、締め付けを強くする目的で、異常ではありません。



【図−2】

【図-2】のように、ブラケット本体の背面の2箇所に(4)の(X)イモネジでポールからブラケット本体が廻らないようにしっかりと固定してください。

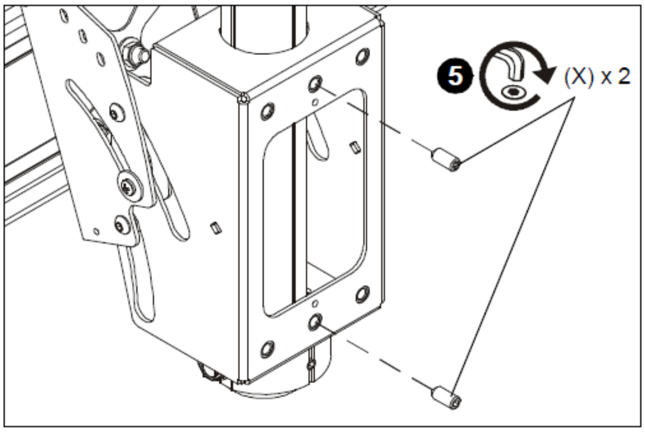
■CPAシリーズアクセサリー使用時の施工方法



【図−3】

【図-3】CPAシリーズパイプを用いる場合、あらかじめ天井に固定したパイプにブラケット本体を貫通させ、パイプの下から(AA)底部固定止め輪を取り付けてください。

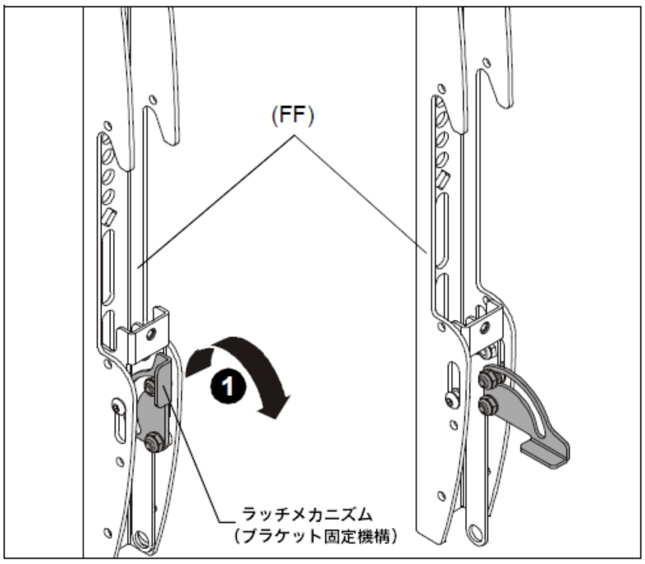
底部固定止め輪は、(V)のワッシャーを介して(U)のタッピングネジで固定します。
その後、(4)の(X)イモネジで固定します。



【図-4】

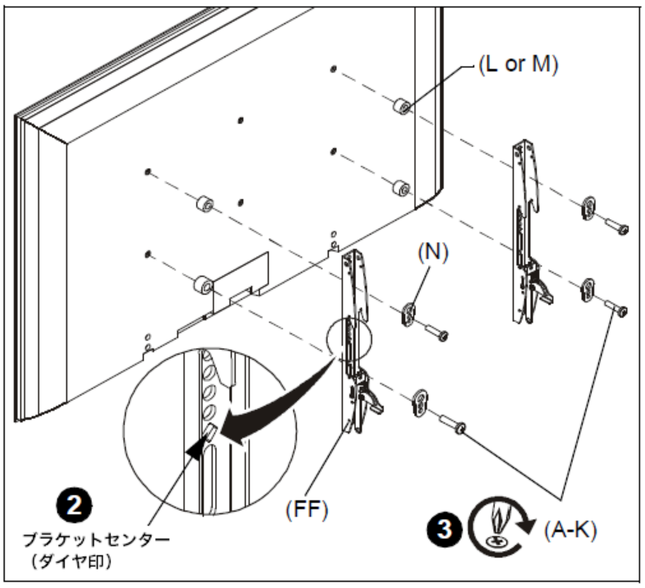
【図-4】の(5)のように、イモネジを取り付けて、取り付けブラケットがまわっていかないように固定します。

■ブラケットとラッチメカニズム



【図-5】

【図-5】ディスプレイブラケット(FF)にはラッチメカニズムがついており、ラッチメカニズムのレバーは固定する場合は収納する側に、ディスプレイを着脱する場合は起こす方向にセットします。



【図-6】

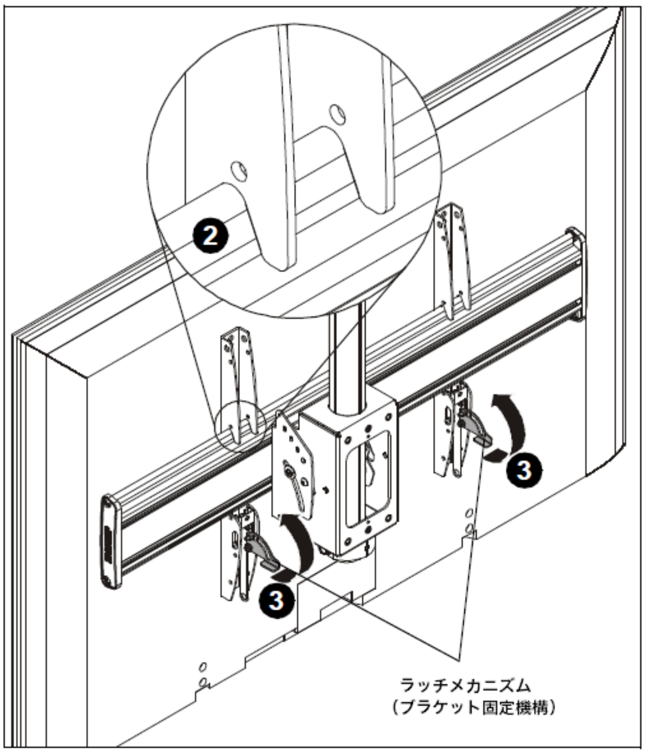
【図-6】ディスプレイにディスプレイブラケットを取り付ける。

ディスプレイの背面の取付ビスを確認し、ディスプレイの中心がブラケットのセンターになるように、(2)のダイヤ印のブラケットセンターを目印にしてビス固定します。

ディスプレイの背面に突起があったり、配線を逃がす場合は図中、(L orM)のようにスペーサーを使用します。

ディスプレイを取り付けるためのビスは各種付属していますが、ネジ径が小さなものでディスプレイを固定する場合は、(N)のようにワッシャーを用いてブラケットのビス穴からビスが脱落してしまわないように注意してください。

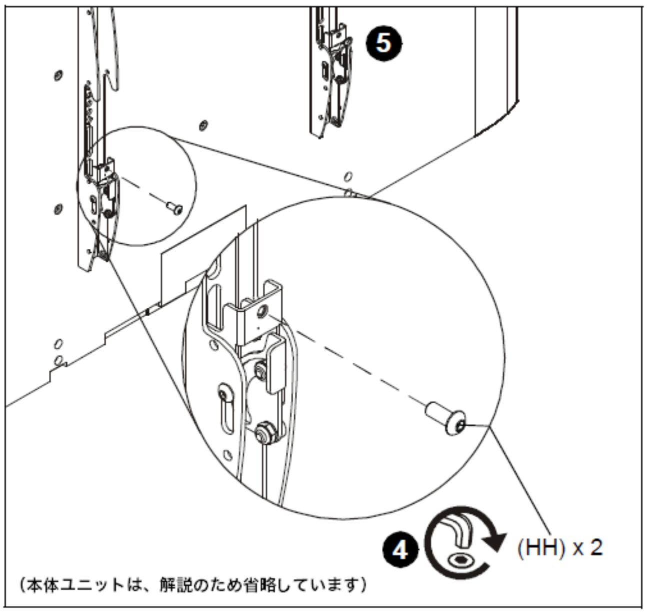
■ディスプレイをシーリングマウント本体に取付ける



【図–7】

ディスプレイ本体をマウント本体に取り付ける際には、まず、【図-7】の(3)のラッチメカニズムを引き出して起こしておき、(2)のようにブラケットのフックをマウント本体のレールに引っ掛けます。

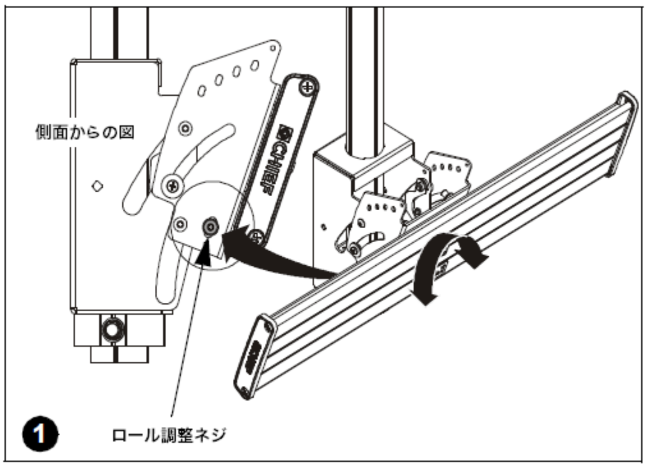
このとき、ディスプレイとマウントの中心が合致しているかを確認して、ラッチメカニズムを倒して収納してください。



【図–8】

ラッチメカニズムを固定方向に倒したあと、【図-8】のように(HH)ビスでディスプレイが左右方向に滑らないように固定してください。

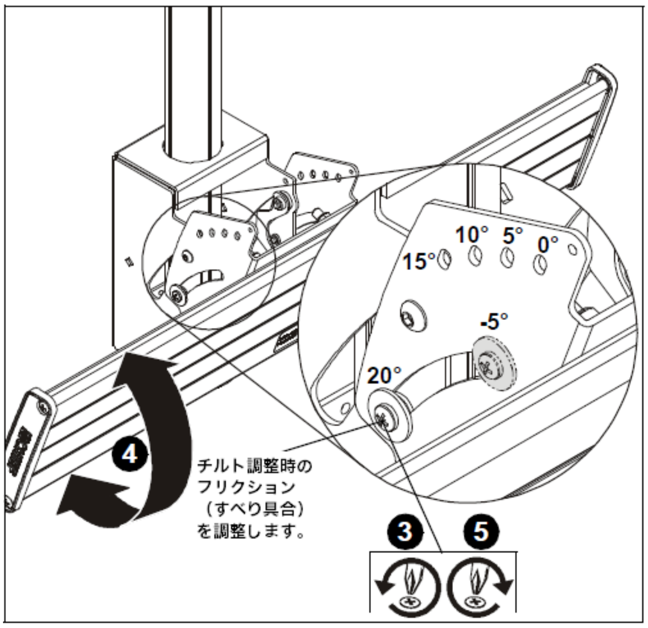
■ディスプレイのロール調整



【図–9】

ディスプレイの正面にまわってディスプレイが左または右に傾いている場合は、【図-9】のようにロール調整ネジで、ディスプレイが水平になるように調整してください。

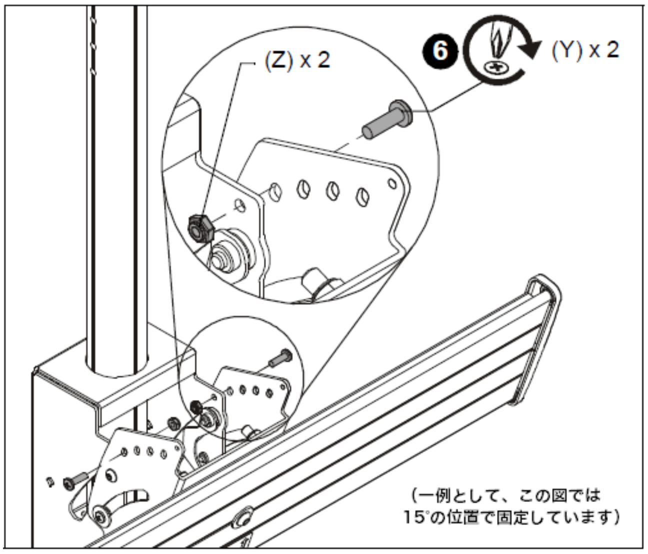
■傾斜角度調整



【図-10】

ディスプレイの傾斜角度は【図-10】のようにー5°から20°の範囲で調整が可能です。(4)のような方向で角度を調整することができます。
調整がおわりましたらネジを締めてください。

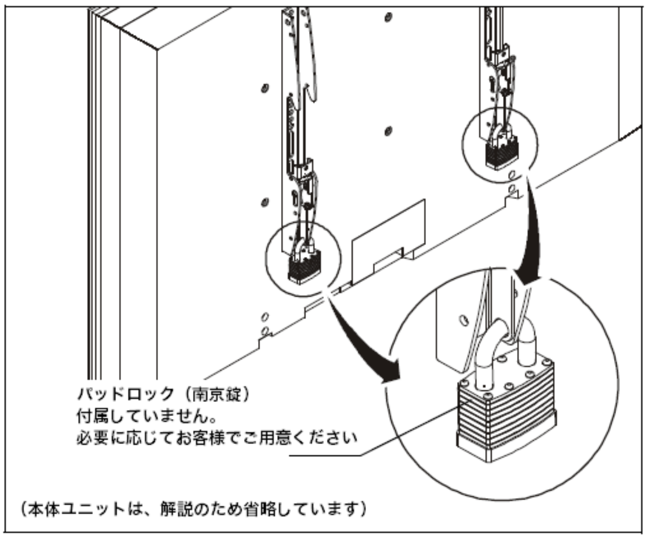
※ディスプレイの角度を頻繁に変更する際は、チルト調整ネジの締め具合を適宜調整してください。



【図-11】

ディスプレイの傾斜角度を決まった角度で固定したい場合は【図-11】のように、0°、5°、10°、15°のそれぞれの位置にネジ穴が設けてありますので、図のように(6)の(Y)ネジと(Z)ナットで角度調整部分の2箇所を固定してください。

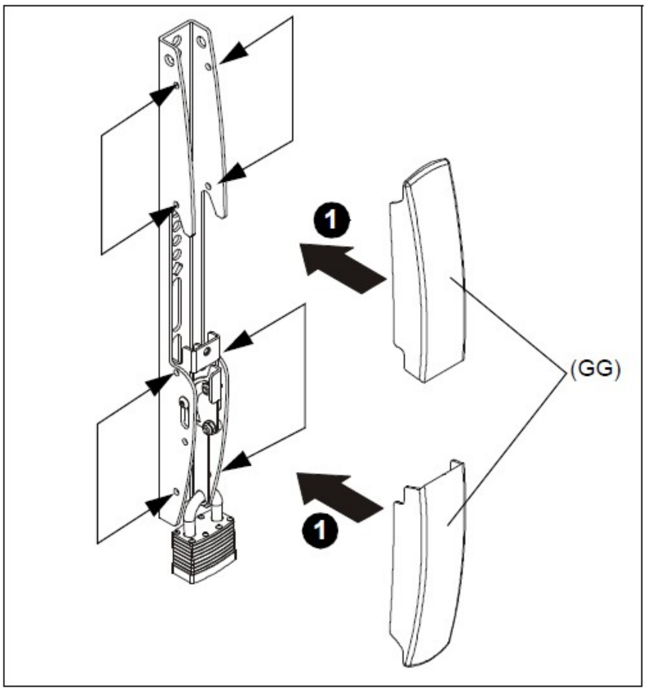
■セキュリティロックシステム



【図-12】

ディスプレイの盗難防止の目的で、南京錠を取り付けることができます。
南京錠はお客様にてお買い求めください。
【図-12】のブラケット下部のセキュリティロック穴を利用して固定してください。

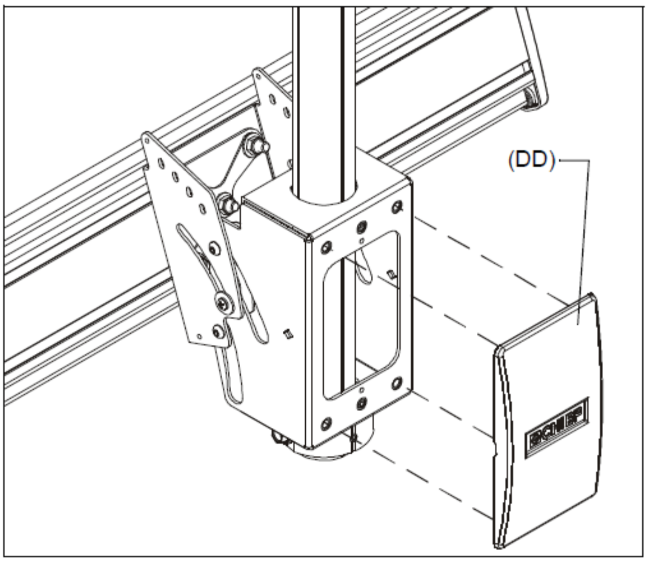
■化粧カバーの取付



【図-13】

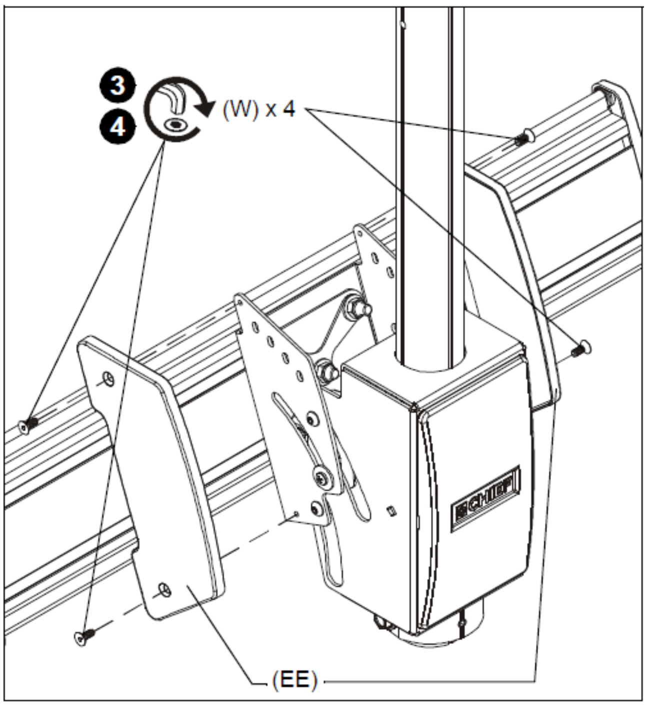
【図-13】のように、化粧カバー(GG)をはめ込んでください。

■化粧カバーの取付



【図−14】

【図-14】のように、背面カバー(DD)を取り付けてください。はめこみ式です。



【図−15】

【図-15】のように、角度調整部の両側に(EE)のカバーを(W)ネジで取り付けてください。

CHIEF正規輸入総代理店

株式会社
映像センター
AUDIO VISUAL COMMUNICATIONS LTD.

http://www.avc.co.jp/

● システム販売事業部　首都圏　〒135-0063　東京都江東区有明3-7-18 有明セントラルタワー 8F
TEL：03-3527-8660　FAX：03-3527-8666

関　西　〒564-0062　大阪府吹田市垂水町3-18-25
TEL：06-6836-7827　FAX：06-6310-6144

第002版　2014年 12月16日発行